



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2015年7月発行 (第63号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

◎巻頭メッセージ:「7年の滅びの契約」 エレミヤ

◎証:「仮庵の祭り(2)」 E3

◎お知らせコーナー:「本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

[巻頭メッセージ]

「7年の滅びの契約」

by エレミヤ

＜クリスチャンが、反キリストと滅びの契約を結ぶ7年がある＞

今回は、「7年の契約」として、このことをみていきたいとおもいます。終末の艱難時代に獣の国や反キリストが、多くのクリスチャンとの間で堅い契約、滅びの契約を結ぶようになるとダニエル書に記されています。以下の箇所です。

[聖書箇所]ダニエル書 9:27

9:27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。

ここで書かれている1週、すなわち7年の契約とは、クリスチャンと密接に関係がある、クリスチャンの永遠の命と密接な関係がある、とわたしたちはおもっています。ここに書かれているのは、巷間いわれているような、中東の7年の平和条約などではありません。そうでなく、もっと切実なもの、すなわちクリスチャンがキリストとの間に結ばれている永遠の命に関する

契約を破棄し、逆に反キリストと滅びの契約を結ぶ7年がある、そのことを預言しているようにおもえます。このことをみてみましょう。このダニエル書の箇所は、ダニエルの70週に関する預言の一部です。ダニエル書9章24節～30節のテキストを順にみながら、このこと、終末の日に起きる反キリストとの契約に関してみていきたいとおもいます。

[聖書箇所]ダニエル書 9:24

9:24 あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。

キリストと永遠の命の契約を結んだクリスチャンが、あろうことか、反キリストと（滅びの）契約を結ぶというおどろくべき日が、終末の日に到来することを聖書は預言しています。一体全体どのような理由で、そのような日が来るのでしょうか？その日は突然来るわけではなく、ここでいうダニエルの70週の一環として、その日が来ることを聖書は語ります。

＜7は復讐の数＞

70週ということばには、かくれた意味合い

7年の滅びの契約 エレミヤ

があるようにおもえます。日本語ではこのことばは、70週と訳されていますが、聖書の原語では、「70の7」という意味合いです。さて、新約聖書の中に「70の7」と表現されている箇所があります。以下の箇所です。

[聖書箇所]マタイの福音書 18:21,22

18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」

この箇所で70の7（七度を七十倍）という表現が使われています。70週とおなじ表現なので、これらは関係する箇所と理解できます。ここでは、兄弟を許す限度として、7度ではなく、七度を七十倍、すなわち70の7まで、許し続けることが語られています。しかし、その限度を超えて、なおかつ兄弟が罪を犯し続けるなら、その罪に対して報復があり得る、そうも理解できるのです。そして、このダニエル書では、70週にわたる神の愛、許しにもかかわらず、民が罪を犯し続け、結果、神の怒りがその背教の民に対して燃え上がる、このことをみるのです。

7は「復讐」と関係する数字なのです。レメクの箇所で、「**カインに七倍の復讐があれば、レメクには七十七倍。**」と創世記4章24節と書かれています。さて、7という数字に関するこのような面を理解すると、なぜ、終末の日に反キリストが1週、すなわち7年の間、堅い契約を結ぶと書かれているのか？そのことが理解できます。その契約を結ぶ期間は、6年でも8年でもなく、しかし、7年なのです。

このこと、反キリストが背教のクリスチャンと堅い契約を結ぶ期間が7年であることをとおして、このわざわいは、背教の教会やクリスチャンに対する神の復讐を理由として起きることが理解できるのです。その次をみていきましょう。

[聖書箇所]ダニエル書 9:25

9:25 それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、

君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。

ここでは、70週にわたる神の忍耐、配慮、援助が書かれています。すなわち、もうすでに崩壊し、敵に倒されてしまったエルサレムに対して、神はあわれみをあたえ、他国の王をとおして、「エルサレムを再建せよ」との命令を下したのです。それにより、再びエルサレムは再建されたのです。さらにそれだけではなく、待望のメシヤも、この民に対してあたえられたのです。まさに神は70週の間、忍耐を重ね、愛を重ね、あらゆる方法で民が罪から離れ、神に立ちかえるための道を講じたのです。

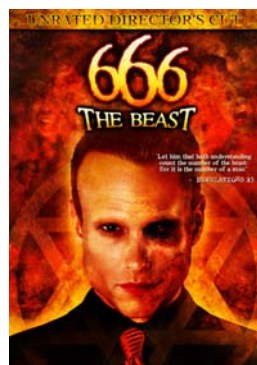
<神の怒りは燃え上がる>

[聖書箇所]ダニエル書 9:26

9:26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。

しかし、そのような神の配慮に対するこの民の反応はどうでしょうか？彼らは神の愛にこたえ、自らの罪を悔い改め、おこないを変えたでしょうか？

「**油そそがれた者は断たれ、**」とみじかく書かれたことばがそのこたえです。民は悔い改めどころか、罪を重ね、さらに神に対して冒瀆的になり、ついにはたった一人の神の子さえ捕らえ、死刑判決を下し、十字架に付けてその命をうばったのです。



反キリストと滅びの契約を結ぶ7年がある

7年の滅びの契約 エレミヤ

さて、このような民のおこないにより、七度を七十倍するまで許す神の愛、忍耐に何か変化が起きたことを私たちは知るべきです。もう、70週も終わりに近づき、神の愛と忍耐とかぎりなく許す姿勢に大きな変化が起きたのです。具体的には神のひとり子であるイエスを殺されたその時を契機に、もう神の愛も、忍耐も限度を迎え、逆にその時を契機に神のすさまじい復讐の怒りが、その背信の民に下されるようになったのです。

「やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。」

その背信の民に対して、神の報復と復讐がおこなわれ始めました。具体的には、その怒りのゆえ、キリストの死後40年後、西暦70年に**「来たるべき君主の民」**すなわち、ローマの皇帝の軍隊が、**「町と聖所を破壊する」**すなわち、エルサレムの町とその聖所を破壊したのです。

その結果、エルサレムはローマにより破壊され、その町の民はさいごの一人まで殺されました。神の忍耐や許しが限度を迎え、逆に神のすさまじい怒りが、その民の罪に対して燃え上がるのを私たちはこのことをとおして見るのです。

さて、上記の事柄は、主の初降臨の日に実際に歴史的に起きたことです。しかし、この70週の預言は、2重の預言であることを思い出しましょう。

この預言はキリストの初降臨の日に実現し、さらにまた、キリストの再臨の日に再度実現するのです。そして、おなじパターンが再度くりかえされる、と理解できます。

具体的には、

①旧約の民は70週の終わりまで、悔い改めることがなかった。逆に油注がれた者、イエスを殺し、すさまじい神の怒りを受けるようになった。

②おなじく新約の民、クリスチャンや教会は、

あらゆる神の警告にもかかわらず、70週の終わりまで悔い改め、歩みを変えることをしない。そして、油注がれた者、聖霊を教会から断つ。結果、すさまじい神の怒りを受けるようになる。

このように、おなじようなパターンがくりかえされるのです。あたりまえのことですが、新約の終わり、教会やクリスチャンの背教がきわまった日に、神の怒りを受けるのは、教会やクリスチャンです。その罰の日だけ、突然ユダヤ人が来て代わりに罰を受ける、などということはないのです。ディスペンセーション主義の嘘を信じてはいけません。

さて、主の初降臨の日に起きたことは、すでに過去、歴史上に起きた事柄です。そして、その過去の歴史の事実を正しく学ぶことにより、わたしたちは、これから終末の日に起きる未来の事柄をある程度類推することができます。なぜなら、あきらかにこれらの2つはおなじパターンで起きるからです。

終末の日に、これらの預言はどのように成就するのでしょうか？考えてみましょう。

「油そそがれた者は断たれ」

教会時代の初めから、終わりまでの歴史、それは、神の下された油、すなわち、聖霊による助けと恵みの日であることを知しましょう。しかし、教会時代の終わりに教会は背教に陥り、聖霊を追い出すようになります。以下のことばのとおりです。

【聖書箇所】Ⅱテサロニケ人への手紙 2:6,7

2:6 あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。

2:7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。

7年の滅びの契約 エレミヤ

ここでは、反キリストの働きをとどめ、引き留めるもの、すなわち、「聖霊が取り除かれる日」について書かれています。そうです。聖霊は教会から取り除かれ、追い出されていくのです。また、他の箇所では、聖霊であるイエスが戸の外に追い出されていることも描かれています。以下のとおりです。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 3:20

3:20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

ここでは、終末の教会ラオデキヤにおいて、聖霊として来られた主イエスが、戸の外に追い出されていることが描かれています。これらの聖書箇所から理解できますように、終末の日の教会はその背教のゆえ、油注がれた者を断つ、すなわち、イエスの霊である聖霊を追い出すようになるのです。

「やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。」

さて、このことばは、終末の日にも再度くりかえされて成就されるようになります。初降臨の日には、このことばは、ローマ皇帝の軍隊がエルサレムの町と聖所を破壊する、という形で成就しました。再臨の日においても、このことは再現するのですが、しかし、それは、たとえをとおして実現するようにおもわれます。主のことばによるならば、じつは神殿は建物というより、キリストのからだ、教会を指すからです。以下のことばを思い起こしてください。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書 2:19-21

2:19 イエスは彼らに答えて言われた。「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」

2:20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。」

2:21 しかし、イエス是你自分のからだの神殿のことを言われたのである。

このように主にあっては、神殿は建物という

より、ご自分のからだ、キリストの御からだである教会を指すのです。ですので、終末の日に起きる宮の崩壊、神殿の崩壊とは、じつは建物としての神殿というより、キリストの御からだである教会の崩壊を意味すると理解できるのです。

このような視点にもとづき、「**やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。**」とのことばを考えると、それは、すなわち、来たるべき君主、反キリスト、獣の国の横暴により、キリスト教会の土台が崩される日がくる、そう理解できるのです。

「その終わりには洪水が起こり」

終末の日の背教の教会は、神の霊である聖霊を追い出します。結果、彼らは、悪霊の洪水に席卷されるようになります。今、ペンテコステ派の教会を中心に起きているリバイバル現象は、この洪水のあらわれです。ベニー・ヒン、ロドニー・ハワードなど、多くのリバイバルの器は悪霊の洪水を起こす器です。

「その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。」

教会には、その終わりまで戦いが続き、あらゆる敵の攻撃が止まずにあること、さらにその先には、徹底的な荒廃や敗北、破滅が待っていることがここでは書かれています。かつての日、エルサレムは徹底的に崩壊され、その都のさいごの一人まで殺されました。このことが終末の日の教会で再現します。背教の教会は敗北し、壊滅し、永遠の命に留まる人は一人もいなくなるでしょう。その荒廃と敗北は定められているのです。

〔聖書箇所〕ダニエル書 9:27

9:27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現われる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

7年の滅びの契約 エレミヤ

「彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び」とのことばをみるには、ここで使われている契約ということばの意味合いを知るべきです。このことばは、以下でアブラハムと神との間で結ばれた永遠の契約に関連して使われたことばとおなじ原語です。

〔聖書箇所〕創世記 17:7

17:7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。

したがって、この契約とは、神と結ばれる永遠の命や永遠の相続に関しておこなわれる契約を指すのです。アブラハムはすべてのイスラエル人の先祖であり、また、新約のイスラエルである我々クリスチャンの先祖です。したがって、彼の結んだ契約とは、我々にも大いに関係があります。というより、ある意味、我々もアブラハムをとおして、神と永遠の契約を結んでいる、といえるのです。

そして、このダニエル書に書かれた1週（7年）の契約とは、このアブラハムとの契約を意識し、対抗し、結ばれるものなのです。もっとハッキリいうなら、その日、獣の国やら反キリストと契約を結ぶ者は、神との間で結ばれた永遠の契約を破棄され、無効とされる可能性が高いのです。この「1週の契約」とは、個々のクリスチャンを狙い撃ちし、彼らが持っているもっとも尊いもの、永遠の命をうばい、神との永遠の契約を破棄するべくおこなわれるものなのです。

また、「多くのものと堅い契約を交わす」と書かれています。すなわち、その日、多くのクリスチャンが神のあたえてくださる永遠の命を売りわたすような契約に同意するようになる、このことを知ってください。ですので、かねてからいっていますように、その日、正しいクリスチャンは、背教の教会にとどまらず、仮庵、すなわち地下教会に行くべきなのです。

「半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。」

半週は3.5日のことであり、それは、3年半

の艱難時代をあらわすものです。その日、今まで教会から神にささげられていた、いけにえやささげものが断たれます。

具体的には、パンや油のささげものが断たれるようになります。結果、パン、すなわちメッセージが教会から消えます。イエス・キリストにこそ救いがある、とのパン、メッセージは、教会から消え去ります。

また、油が消えます。聖霊の働きは消え、悪霊の働きがささげられます。

「荒らす忌むべき者が翼(神殿:70人訳)に現われる。」

神の神殿であり、礼拝所に荒らす忌むべき者である反キリストがあらわれるようになることが、ここで描かれています。キリストの座が反キリストによって、うばわれるようになります。

結論として、聖書は教会の未来に関して恐るべき日を暗示していることを、正しく理解しましょう。獣の国の支配の下で、教会に所属するすべてのクリスチャンに対して、反キリストと契約を結び、滅びの契約を結ぶことが奨励される7年間があるのです。その日に備えて、必要な備えをおこないましょう。



神殿の崩壊の日は再現する

仮庵の祭り(2) E3

約3年前にも「仮庵の祭り」というテーマで証をさせていただきましたが、今回もまた、神さまからそのことを語るように示されたようにおもいましたので、よろしければお読みいただくとさいわいで

す。
また、今年の3月に土曜日の集会の中で、そのことに関して、I列王記からエレミヤ牧師がメッセージをされていたので、紹介させていただきたいとおもいます。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

〔聖書箇所〕I列王記17:1

17:1 ギルアデのティシュベの出のティシュベ人エリヤはアハブに言った。「私の仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。私のことばによらなければ、ここ二、三年の間は露も雨も降らないであろう。」

「ここ二、三年の間は露も雨も降らないであろう。」ということに関しては、ヤコブの手紙にも書かれています。

〔聖書箇所〕ヤコブの手紙 5:17

5:17 エリヤは、私たちと同じような人でしたが、雨が降らないように祈ると、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。

「三年六か月」は、艱難時代のことです。ゆえに「三年六か月の間、地に雨が降りませんでした」とは、「ここ二、三年の間は露も雨も降らないであろう。」とおなじことをいわれています。また、「露」「雨」は「聖霊」のたとえです。ですから「ここ二、三年の間は露も雨も降らないであろう。」とは、「聖霊の働きが止む」ということをいわれています。このことに関して、テサロニケ人への手紙に、「不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。」とありますように、「聖霊が追い出される」という概念は理解しておきたいとおもいます。それに関連して、黙示録にラオデキヤの教会では、戸の外にキリストが追い出されるということが書いてあります。つまりこれは、世の終わりに、「聖霊」が教会から追い出されるということについていわれています。

そして、聖霊の働きが止むことのひとつの大きな問題として…たとえばアメリカでは501(C)

3教会法というものがあります。それは政府のいうことを聞く教会は、税金を免除できるということです。けれども、これは「畏」となります。教会がいずれ政府に乗っ取られ、政府のいうことを聞かない牧師は追い出され、その代わりに同性愛を受け入れるような人が牧師として任命されるようになります。そうすると、「聖霊」が追い出されます。

聖霊の働きが止むことのひとつのポイントとして、聖霊の働きが枯渇することです。ゆえに、このことに備えることに御心があります。ですから、聖霊の働きが枯渇するというときに、クリスチャン生活をどう維持していくのか？について考えておくことは大事です。

〔聖書箇所〕I列王記17:2-5

17:2 それから、彼に次のような主のことばがあった。
17:3 「ここを去って東へ向かい、ヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに身を隠せ。
17:4 そして、その川の水を飲まなければならない。わたしは鳥に、そこであなたを養うように命じた。」
17:5 それで、彼は行って、主のことばのとおりにした。すなわち、彼はヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに行って住んだ。

モーセやエリヤは、黙示録の「ふたりの預言者」につうじます。ふたりの預言者は、モーセがしたように、水を血に変えたり、また、エリヤがおこなったように、火を天から地に降らせたりしました。「ケリテ」とは、「切り離す」という意味合いがあります。すなわち「分離」についていわれています。つまり「ケリテ川のほとりに行って住んだ。」とは、エジプト化した教会から分離して、その川で養われるということを語っています。ですので、ここでのポイントは、預言者的な働きにたずさわっていくなら、天から雨が降らなくても、神によって「川」が用意されている、ということです。

〔聖書箇所〕I列王記17:7-9

17:7 しかし、しばらくすると、その川がかれた。その地方に雨が降らなかったからである。
17:8 すると、彼に次のような主のことばがあった。
17:9 「さあ、シドンのツアレファテに行き、そこに住め。見よ。わたしは、そのこのひとりのやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」

仮庵の祭り(2) E3

「ツアレファテ」とは、「溶鉱炉」という意味です。このことは、ダニエル書にある「火の炉」につづきます。ダニエルの三人の友、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴが、ネブカデネザル王が建てた「金の像」をおがまなかったために投げこまれた所です。そしてこのことは、わたしたちが艱難時代に、艱難をとおして信仰が試されて区分されることにつづきます。すなわち、「ツアレファテのやもめ」とは、艱難時代をとおるやもめのことです。つまり真の夫を「天の夫」とし、再臨のキリストを待つクリスチャンや教会のたとえのことなのです。

〔聖書箇所〕 I 列王記17:10-14

17:10 彼はツアレファテへ出て行った。その町の門に着くと、ちょうどそこに、たきぎを拾い集めているひとりのやもめがいた。そこで、彼は彼女に声をかけて言った。「水差しにほんの少しの水を持って来て、私に飲ませてください。」

17:11 彼女が取りに行こうとすると、彼は彼女を呼んで言った。「一口のパンも持って来てください。」

17:12 彼女は答えた。「あなたの神、主は生きておられます。私は焼いたパンを持っておりません。ただ、かめの中に一握りの粉と、つぼにほんの少しの油があるだけです。ご覧のとおり、二、三本のたきぎを集め、帰って行って、私と私の息子のためにそれを調理し、それを食べて、死のうとしているのです。」

17:13 エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、まず、私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。それから後に、あなたとあなたの子どものために作りなさい。」

17:14 イスラエルの神、主が、こう仰せられるからです。『主が地の上に雨を降らせる日までは、そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくならない。』

このやもめは窮乏しています。そして、このことは、ある型を示しています。つまりパン、すなわち、みことばの窮乏、そして油、すなわち聖霊の窮乏があるということをいわれています。艱難時代は、どこの教会へ行ってもまともなメッセージがない、聖霊の働きがない、ということを行っています。反キリストを拝むメッセージとか悪霊の器から変な霊が下されるといった教会ばかりになります。そんな時に・・・クリスチャンとしての命の息が絶たれそうというときにどうするのか？についていわれています。その時に、聖書は逆説的なことをいっています。13節で「パンを持っ

て来なさい」と、とんでもないことをいっています。ここでのポイントは、エリヤのためにパン、すなわちメッセージを作ることです。そして艱難時代が終わるまで、そうしていくのです。

〔聖書箇所〕 I 列王記17:15,16-14

17:15 彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。

17:16 エリヤを通して言われた主のことばのとおり、かめの粉は尽きず、つぼの油はなくならなかった。

これは御国の奥義として書かれています。「やもめ」としての立場を取っていくときに・・・また、「地下教会」をしていくときに、まともなメッセージがない！ということに陥らなくもないとおもいます。けれども、まず、エリヤに「パン」すなわち「メッセージ」を持って行くのです。そう、黙示録にありますように、「預言」や「警告」の働きに力を入れるのです。そうすると、教会も結果として養われるのです。その時にパンや油、すなわちメッセージや聖霊の働きは尽きないのです。

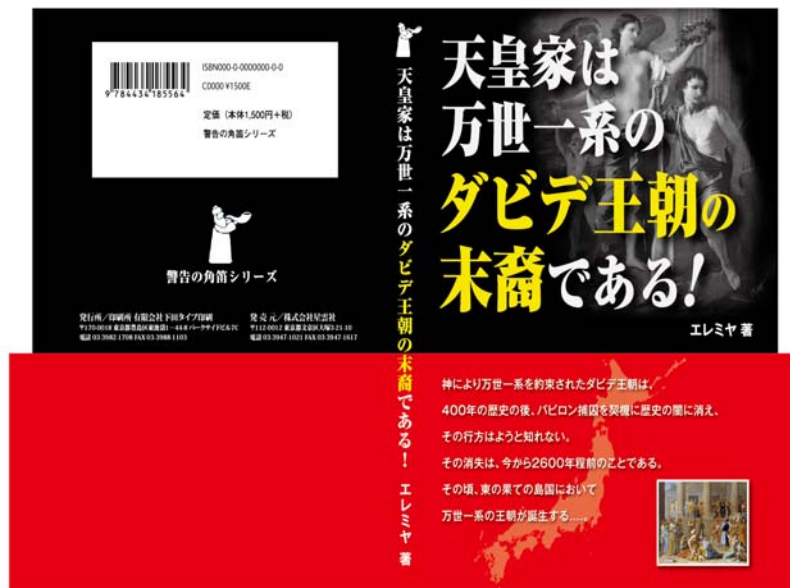
以上のことを語られていたのですが・・・このことをとおして、終末、そして艱難時代においては「地下教会」の歩みや働きに大いに御心があることが理解できるのでは？とおもいます。そうするのでしたら、エレミヤ牧師が語られていましたように、パンや油に尽きることがなく、結果としてご自身の命（永遠の命）を救うものとなるとおもいます。もし、そうかもしれないなあ、なんておもわれましたら、ぜひ実践していきましょう。今回も大切なことを語ってくださった神さまに感謝します。



エリヤのことばどおりにおこなって、パンや油のききを免れたツアレファテのやもめ

お知らせコーナー

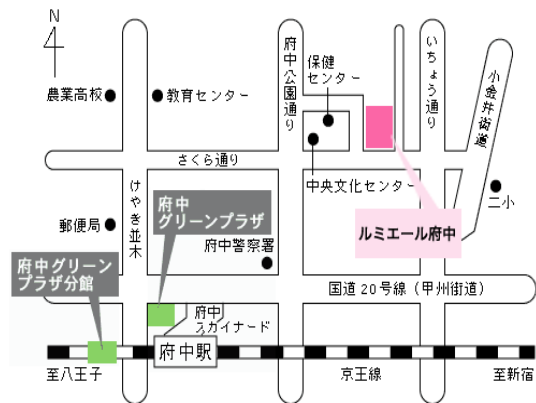
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
● mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
午後 14:00-16:00
場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
(tel:042-360-3311)
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>